

## 第19回 会長の時間 「疾病予防と治療月間」 12月15日

先週の年末家族例会では、芥川親睦委員長を初めとして親睦活動委員の皆様には大変お世話になりました。94名のご参加を頂き、とても楽しい家族会になりました。ありがとうございました。

また、12月11日の日曜日に行われました第46回宇部市年末街頭美化清掃には、我がロータリークラブのメンバー10数名と、内良奨学生の曹君や宇部西高等学校の古川校長先生も参加され、宮大路児童公園から市役所までの道沿いのごみを拾いました。例年より、落ち葉を含めてゴミの量が減っていた感じを受けました。最後に市役所沿いの真締川沿いに集合し、岡村会長と副市長のお話の後、全体の集合写真を撮りました。ご参加頂きました皆様、ありがとうございました。

さて12月は、RIの6大重点項目の1つである「疾病予防と治療月間」です。世界の中でも日本は長寿社会で、平成27年の日本人の平均寿命は男性が80.79才で世界4位（香港・アイスランド・スイスの順）、女性が87.05才で世界2位（香港について）でしたが、男女合わせれば、平均寿命は83.7才で、依然として世界一の長寿国です。しかし、日本も以前は欧米に比べて決して長くなく、明治時代の男女平均寿命は43才、大正時代が46才でありむしろ寿命の短い国に分類されていました。しかし、昭和50年にスウェーデンを抜き、世界一の長寿国になったのを契機として現在まで世界一を誇っています。

その理由の一つとして戦後、生活環境の改善によって、日本人の栄養状態がよくなったからといわれています。感染症で亡くなる割合が減り、母子保健の充実により、乳幼児、新生児の死亡率が極端に低下したことが日本人の平均寿命を大幅に延ばした要因の1つとして挙げられています。

ところで、世界に目を向けますとまだまだ乳幼児の死亡率が高い国が多く存在しております。その高い乳幼児死亡率が国民の平均寿命を下げている最大の要因です。RIは、世界の子どもたちの健康を守る目的で「世界からポリオを撲滅する」という壮大な計画をたてましたが、当初はロータリアンの中には半信半疑の状態でありました。それも、ロータリーがポリオ根絶を宣言した28年前には、世界125カ国で35万人のポリオの子どもたちが確認されていたからです。ポリオの発生数は、世界ポリオデーの時にお話ししましたが、昨年までの常在国はパキスタン、アフガニスタンの2か国のみとなっておりますが、残念なことに今年8月再びナイジェリアが常在国に加わりました。ポリオ撲滅運動がいかに難しい事業かを改めて認識したところです。しかし、私たちロータリアンは、地球上からポリオがなくなる日が来るまでは、決して手を緩めることなく支援す

べきと思います。

さらに、乳幼児死亡率を高めるもう 1 つの重要な要因として不衛生な環境の問題が挙げられます。特に水の問題は深刻で、現在でも 31 か国が水不足に悩んでおり、12 億人の人は不衛生な環境で暮らしております。開発途上国における病気の 80% は汚水が原因ともいわれています。また、開発途上国での人口の増加がさらに水不足に拍車をかけており、そのことが食料生産に支障をきたすとともに労働力の低下を招き、途上国の開発・発展に大きな妨げになっています。このように、水問題は、疾病の予防の意味でも避けて通れない課題です。

世界のすべての子どもたちが安全で健康な暮しができる日がいつか来ることを願いながら、我々もできる範囲で、グローバルな奉仕活動に取り組んでいきたいと思います。本日は、「疾病予防と治療」についてお話ししました。